

# 人間福祉スーパービジョン・センター ピア・スーパービジョン

岡安 努

2009年3月7日、聖学院大学ウェルフェアネットワーク（聖学院大学人間福祉学科卒業生有志による福祉現場で働く仲間のネットワーク）主催、聖学院大学総合研究所 人間福祉スーパービジョン・センター共催により、第2回ピア・スーパービジョンが開催された。まず本大学人間福祉学科准教授相川章子先生から「失敗から学ぶソーシャルワーク」と題して講演いただき、本大学人間福祉学科長牛津信忠先生から「ピア・スーパービジョンとは」と題して説明いただいた。その後、グループに分かれピア・スーパービジョンを行った。各概要は以下の通りである。

## 1. 〈失敗から学ぶソーシャルワーク〉

実践における「失敗」を通して、ソーシャルワーカーには、①利用者とともに歩みながら先を見通す力が必要であること、②希望をかなえるためといって課題を押しつけるのではなく、ストレングスの視点が重要であること、③他職種との連携において、なんのための連携かを問いなおす姿勢が重要なこと、④地域との関係作りには継続性が必要なこと、⑤職員との関係は二の次にせず本来の仕事とし、ピア・スーパービジョンの充実をはかることが求められることを学んだ。

「失敗」を認めるまでには「これで良かったのか」「どうしようもなかった」「私の失敗ではない」といった葛藤や迷いが生じるものである。しかし、そうした過程を通して自らの実践を反省的に振り返り、課題を前向きに捉えることで新たな発見を見出すことができる。

現場の卒業生からは「所属機関内や他職種との連携において、支援に対する考え方の不一致がある」「利用者への支援において力不足を感じる」「職員との関係に悩む」「利用者との関係で悩む」との声が聞かれる。そうした気持ちの積み重ねは、悩み疲れてバーンアウトしてしまう、もし

くは「まあいいか」と妥協し福祉に熱意や思いが持てないソーシャルワーカーを生み出すことになる。

「失敗」や悔しい思い、不全能をより良い実践に転換していくためにも、ピア・スーパービジョンでの仲間同士の語り合いや支え合いが重要だと考える。

## 2. 〈ピア・スーパービジョンとは〉

ピア・スーパービジョンは実践における対処方法の模索、専門家としての役割、価値観の点検、モラルや夢、希望、生きがいのある取り組みへの発展、燃え尽きの防止等のためにかかせない手段の一つである。同じ目的を持った仲間同士、お互いの困難を共有し問題解決や実践の質を高めるためのもので、互いに自分の体験を最大限活用しサポートし合うという「共感共同体へのプロセス」である。

他の人の役に立つという相互主義的体験を通して、独善性からの離脱が可能となる。しかし一方で内容が個別援助面に偏り、もたれ合い、傷のなめ合いに終わる恐れがある。コメンテーターやリーダーの必要性がある。また「気軽な仲間」同士での守秘義務の遵守も課題である。何かを成し遂げようと結果を求めることや、それに伴う労を避け、仲間のできることの限界を見極めながら活動していくことも必要である。

さらに今後ソーシャルインクルージョン（全体への強制ではなく）を重視しケースワークからコミュニティワークへ展開していくことを期待している。

## 3. 〈ピア・スーパービジョン〉

30名ほどの参加者で4つのグループ（①主に精神障害者を主たる利用者としている事業所、②高齢者関連の事業所、③病院、クリニック、④そ

の他、社会福祉協議会等）に分かれ討議した。

所属内の職員や他職種、他機関との連携において、相手から一方的に考えを押しつけられて話を聴いてもらえない、相手にうまくこちらの意見を伝えられない等の悩みがある。しかし、ここで大事にしなければならないのは利用者の思いや真のニーズである。利用者とかかわりでは時に現実的ではないと思う望みが表出されることがあるが、時間をかけて相手の思いや表出された言動の背景を理解しようとする姿勢が重要である。

そうした姿勢を保持し続けるためには悩みや葛藤を打ち明けられる仲間の存在が必要である。しかし実際にそのような機会を職場内で持つことは難しく、SEIG スーパービジョンのように、日々の感じていることや思いを語り合える場が必要であることを強く感じた。

以上が概要である。講演やピア・スーパービジョンを通して、実践に引きつけてソーシャルワーカーにとっての大切な視点や姿勢について学ぶことができた。クライアントがさまざまな人や環境との関係の中で、自分の思いを表明できずに苦しんでいることがある。また社会が構築されていく中でクライアント自身が気づかぬ間に、望む暮らしを諦めさせられている状況もある。そのような中でソーシャルワーカーにはクライアントをかけがえのない個人として尊重し、十分時間をかけた関係の中でクライアントの自己実現に向け協働していくというかわりが求められると考える。

そうした過程を可能にするためには実践の点検が不可欠である。今回のピア・スーパービジョンのような悩みや葛藤を共有できる仲間との支え合いは、自らの実践を反省的に振り返ることを助け、参加者にとって気づきが深まる貴重な時間となったのではないかと感じている。

（おかやす・つとむ 精神保健福祉士、聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科卒）

（2009年3月7日、新都心ビジネス交流プラザ4階会議室）

## 人間福祉 スーパービジョンセンター

社会福祉の現場で働く人を支援する機関です

### スーパービジョンとは？

スーパーバイザー（熟練のソーシャルワーカー）が経験の浅いソーシャルワーカーに対し、その人の能力を生かし、よりよい実践ができるように支援を行うものです。

### 〈プログラム〉

#### 個別スーパービジョン

個人の要望に応じた支援を行う。

1回1.5h程度、日時は相談による

場所：新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室\*、  
聖学院大学、聖学院生涯学習センター\*\*

料金：1回6千円（卒業生2千円）

#### グループスーパービジョン

固定グループによる年間プログラム10回

毎月第2火曜日18：30～20：30

場所：新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室\*

料金：年間3万円（卒業生1万円）

#### スーパーバイザー支援制度

スーパービジョンを行っている人を支援する。

1回1.5h程度、日時は相談による

場所：新都心ビジネス交流プラザ聖学院教室\*

料金：1回8千円（卒業生5千円）

#### ピア・スーパービジョン

2009年10月10日（土）13：30～17：00

場所：聖学院大学4号館4階

料金：無料

\*JR 埼京線北与野駅西口ロータリー前

\*\*JR 山手線駒込駅徒歩3分

連絡先 聖学院大学総合研究所

048-725-5524

research@seigakuin-univ.ac.jp